



尼崎城整備に係る展示計画

<概要版>



尼崎市

はじめに

尼崎城は、元和3年(1617)に5万石の大名として赴任してきた戸田氏鉄によって、約300メートル四方の敷地に築かれた。しかし、明治6年(1873)に廃城が決まった後、城の建物は売却されたり、取り壊されたり、堀も埋められていったために、今では全くその姿を見ることはできなくなった。

本市では、阪神電鉄尼崎駅の南側の寺町や尼崎城跡を中心とした地域を歴史・文化ゾーンと位置づけ、地域資産を生かした歴史、文化の視点からの魅力づくりを進めていくこととしていた。平成28年に市制100周年という区切りを迎えることを鑑み、城内地区を中心に「都心と歴史文化ゾーンが調和した交流と学びの拠点の創生」を目指した整備に取り組むことを検討してきた。

こうしたなか、「尼崎城を建築し、子どもからお年寄りまで歴史を学べ、楽しめる場所を提供したい、末永く市民に愛されるよう整備したい」という意向が旧ミドリ電化の創業者、安保詮氏から寄せられ、尼崎市長と平成27年11月25日付けで「尼崎城の建築および寄附に関する協定」を締結し、平成28年12月から関連工事が始まっている。

再建する尼崎城天守は、本市の歴史的な地域のシンボルとしての活用のみならず、城内地区や寺町、さらには商店街などもめぐっていただくための観光資源としても期待できるものであり、また、寄附いただいた後は本市が管理・運営を行っていくことも踏まえ、その具体化に向け、専門家や設計者と本市との間で協議の機会を設け、これまで検討を重ねてきた。

本計画は、こうしたことを踏まえ、尼崎城天守の基本的な方針や施設内容、運営および事業計画等についての方向性を明らかにしようとするものである。

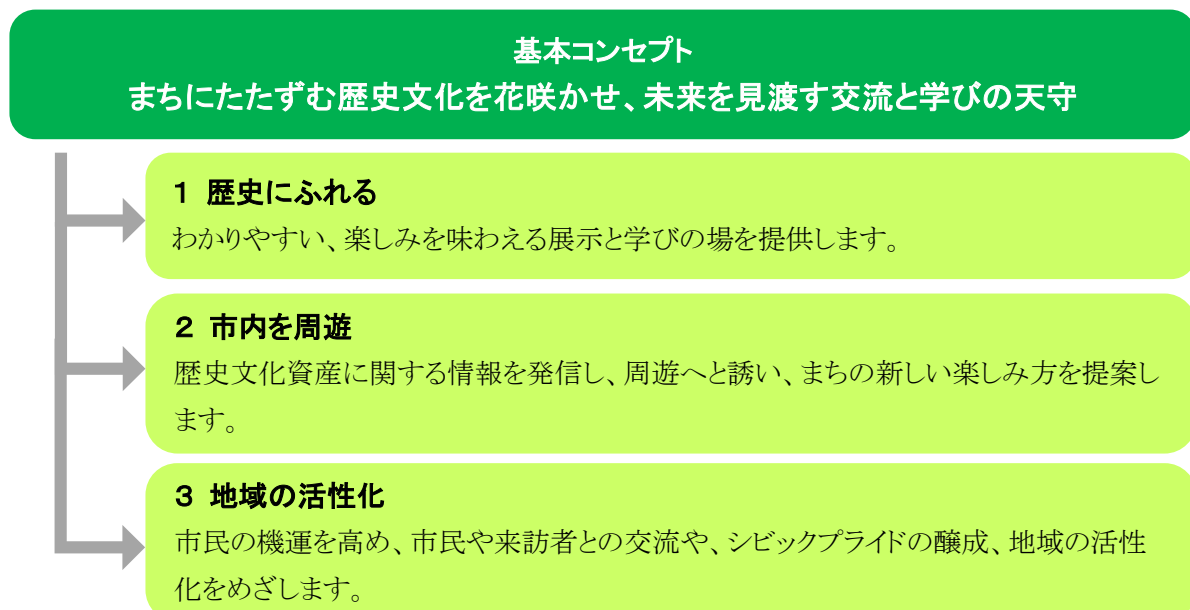
基本理念

尼崎城天守を拠点に、尼崎の歴史文化資産と連携して、市民はもとより来訪者にも魅力あふれるまち・尼崎のイメージを力強く定着させ、シビックプライドの醸成、地域の活性化をめざす。

1 基本コンセプト

まちにたたずむ歴史文化を花咲かせ、未来を見渡す交流と学びの天守

2 施設整備の目的



施設計画

1 建設場所

近世にあった場所から北西約 300 メートルに位置する尼崎城址公園内。

尼崎市北城内 27 番地 他。

建設場所

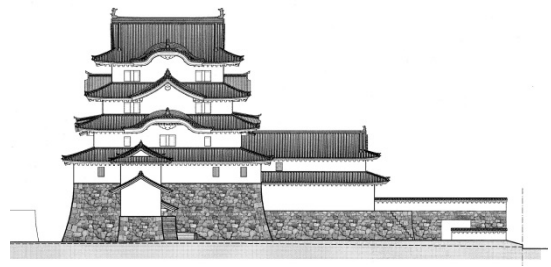


近世尼崎城天守

2 施設構成・規模

4重天守および2重付櫓、鉄筋コンクリート造・地上5階(エレベーター1基)

敷地面積	13,479.1 m ²
建築面積	641.96 m ²
延床面積	1,408.99 m ²
棟高	24.399m



南立面図イメージ

3 配置計画

配置図(尼崎城址公園整備計画図)



平成 29 年 3 月現在 ※配置図はイメージであり、変更がある

4 建物の考え方

- (1) 当時と立地場所が異なること、建築に係る予算や今後の維持管理費抑制の観点から、現代工法(鉄筋コンクリート造)を採用する。
- (2) 近世尼崎城の資料を参考に設計し、内外部の素材についてはできる限り伝統的な素材、工法を採用する。
- (3) 敷地条件から、当時の尼崎城の天守(北東隅櫓)を含めた1/4程度の範囲について再建することとし、城郭としての構えを維持し天守への動線を本丸外から本丸内へと連続的に確保するため本丸の配置を東西反転し、天守から東方向と南方向へ展開する構えをとる。
- (4) 内部にはエレベーターを配置し、気軽に、また安全に来城できるよう整備する。

展示計画

1 展示コンセプト

尼崎の歴史文化を花咲かせる感動と楽しさあふれるわかりやすい展示。

- ・ すべての人々が楽しみながら展示観覧できる「体験型の展示」
- ・ 時代のイメージへ入り込むことで興味が喚起される「没入感の展示」
- ・ 当時の生活を疑似体験するなど、これまであまり知らなかった歴史文化にふれる「発見の展示」

2 展示ゾーニング(フロア構成)

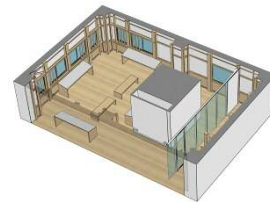
来訪者にはわかりやすく、施設管理者には管理しやすい機能とするため、有料、無料ゾーンを明確にし、シンプルな動線計画となるように配慮する。

また、市民が気軽に集うことができる「交流」のフロアを設け、様々なイベント等にも柔軟に対応できるようにする。

■5階(展示面積:約 70 m²)

わがまち尼崎展望室

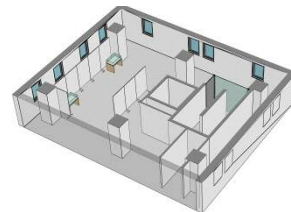
- ・わがまち尼崎展望スタンド



■4階(展示面積:約 100 m²)

ひと咲きあまがさきギャラリー

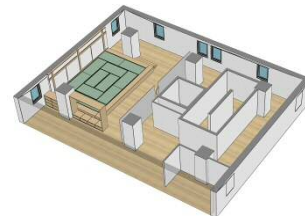
- ・荻原一青ワールド
- ・尼崎ゆかりの人びと
- ・企画展・特別展



■3階(展示面積:約 160 m²)

尼崎体験イベントスペース

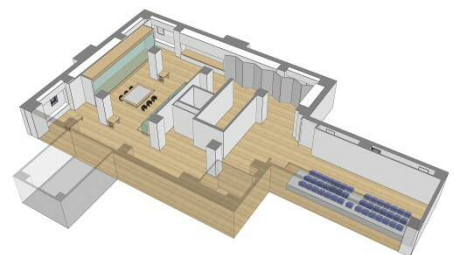
- ・タタミ・ステージ
- ・なりきり体験コーナー



■2階(展示面積:天守約 320 m²・付櫓約 70 m²)

尼崎城体験ゾーン

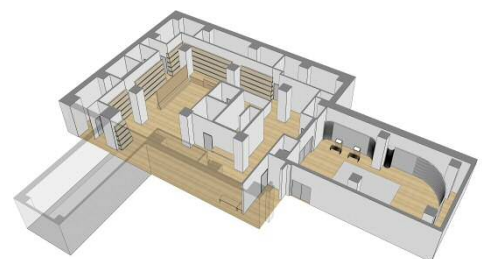
- ・近世尼崎タイムスリップ体験
- ・近世尼崎城下体験コーナー



■1階(展示面積:天守約 240 m²・付櫓約 100 m²)

尼崎ガイドンスゾーン

- ・尼崎まちあるきガイドンス&ショップ
- ・尼崎いまむかし
- ・イベントや講演会など交流スペース



3 各階の展示構成(イメージ)

■ 1階(天守): 尼崎まちあるきガイドンス&ショップ

～尼崎市内の周遊へといざなう

市内の周遊へと誘う文化観光案内と催事案内のコーナーを整備。さらに尼崎の歴史文化に関する書籍やグッズ、地元の土産や商品などを販売するショップを設ける。



<機能・構成>

- ・ごあいさつパネル(※1)
- ・案内コーナー
- ・ミュージアムショップ
- ・パンフレットコーナー
- ・寄附者ネームプレート(※2)
- ・トイレ
- ・事務室
- ・ボランティア控室
- ・倉庫・バックヤード 等

※1 尼崎城天守再建の経緯などの紹介

※2 寄附いただいた方のお名前を掲示

■ 1階(付櫓): 尼崎いまむかし

～多彩な尼崎のまちの表情との出会い

城内地区のいまむかしを重ねた地図により尼崎の歴史の変遷を紹介するとともに、尼崎の歴史(例: まんが尼崎歴史絵巻)や周辺の近代遺産、工場群の夜景などを紹介します。また、イベントや講演会にも使用できるように、出来る限り広いスペースを確保し、プロジェクター、スクリーン、音響設備を備える。



<機能・構成>

- ・あまナビ(※3)
- ・尼崎いまむかし
- ・まんが尼崎歴史絵巻
- ・尼崎ハイカラ建物散策

※3 興味に沿ったスポットを見つけて周辺地域への周遊を計画

■ 2階(付櫓):近世尼崎タイムスリップ体験

～往時の尼崎城と城下町に肉迫できる、目の前に広がるかつての尼崎城のすがた
タイムスリップ尼崎城VRシアター

往時の尼崎城をCG(コンピュータグラフィックス)で再現。尼崎城の概要を解説する視聴覚施設を整備。



<機能・構成>

- ・タイムスリップ尼崎城VRシアター
- ・尼崎城歴史年表
- ・CGでよみがえる尼崎城

■ 2階(天守):近世尼崎城下体験コーナー

～体験的に近世尼崎のくらしや文化にふれる

城下町パネルや尼崎城関連資料、尼崎ゆかりの物語、年表などで近世尼崎のくらしや文化にふれていただく。築城体験や城下町すごろく体験などにより遊びながら学ぶことができる。また尼崎城天守の再建のメイキングコーナーを設置。再現された瓦や鯨なども展示。



<機能・構成>

- ・近世尼崎城下体験コーナー
- ・尼崎城天守メイキングコーナー(※4)
- ・尼崎城建築体感コーナー(※5)

※4 グラフィックや映像で再建の様子等を紹介

※5 当時の内装・しつらえを再現し歴史的な趣を醸し出すコーナー

■ 3階(天守): 尼崎体験イベントスペース

～可変的なタタミ・ステージで様々なイベントを開催！

近世尼崎城があった時代の衣裳等を着てコスチュームプレイを楽しんでいただく。また、当時の生活様式、風習などを体験していただく。さらに落語会や茶会、将棋対戦などにも利用できるタタミ・ステージを整備。タタミ・ステージ等は分解すると、オープンスペースにも可変させることができ、特別な催しの開催も可能。



<機能・構成>

- ・タタミ・ステージ
- ・なりきり体験コーナー
- ・倉庫
- ・水洗い場
- ・トイレ等

■ 4階(天守): ひと咲きあまがさきギャラリー

～尼崎ゆかりの人物の業績を通じて展開する話題性の高い展示

尼崎出身の城郭画家・荻原一青の作品やゆかりの品を展示し、尼崎出身の芸術家の存在に誇りを感じていただく。また尼崎ゆかりの有名人とゆかりの地、エピソードなどを紹介。また、企画展や特別展の開催にも対応。



<機能・構成>

- ・荻原一青ワールド
- ・尼崎ゆかりの人びと
- ・企画展・特別展
- ・倉庫

■ 5階(天守): わがまち尼崎展望室

～展望の楽しみに加えて、尼崎の歴史ある都市の発展を実感

来訪者と尼崎をつなげる演出空間。木材をふんだんに使った歴史を感じることができる天守最上階から歴史・文化ゾーンを望み、今の尼崎の姿を理解していただく。見ている風景の解説スタンドも用意。さらに現代のまち並みと昔のまち並みを見比べながら詳細情報を得ていただき、歴史の移り変わりを感じていただく。



<機能・構成>

- ・わがまち尼崎展望スタンド
- ・VR(仮想現実)体験

管理運営計画

1 基本的な考え方

尼崎城天守は市民・来訪者が尼崎の歴史文化に触れて学ぶことができる施設である。また、尼崎の魅力を発信する観光施設や、市民が気軽にいつでも集うことができる交流施設としての性格も有する。これらのことをふまえて、管理運営を進める際に重要なことを運営の基本的な考え方とする。

- (1) 市民・来訪者に開かれた運営
- (2) 市民・来訪者の満足度を高める運営
- (3) 開かれた施設として市民・来訪者の立場に立った運営
- (4) 施設がになう使命・役割を持続的かつ着実に果たす運営

2 運営形態

尼崎城天守の運営形態については、事務の効率化、専門性・ノウハウの発揮などの観点から決定していく必要がある。

本市の厳しい財政状況や歴史・文化のみならず観光的要素も考慮すると、他都市の事例を参考に運営形態は指定管理を基本として検討する。

なお、基本理念をより発揮するためには尼崎城天守だけではなく、隣接する駐車場や尼崎城址公園でのイベントなど、一体的な指定管理を検討する。

3 開館形態

(1) 開館日時

ア 開館日・休館日

多くの人を利用するためには、できる限り休館日を少なくすることが考えられる。しかしながら、施設の適切な管理運営を行う必要があることから、効率的な運営に留意し、一定の休館日や資料整理日などの特別休館日を設けることが必要である。

イ 開館時間

開館日と同様、多くの人を利用しやすい開館時間について管理運営の効率性などを考慮して設定する。

そのうえで、季節や曜日、企画展やイベントの開催状況などに応じた開館時間の拡大、平日夜間の事業開催など、利用者の要望などを把握しながら、柔軟で弾力的な開館時間を検討する。開館日時については、周辺施設の現況を参考に、費用対効果も加味しながら設定する。

(2) 入城料

多くの人気軽に、また繰り返し利用できるよう、1階については無料で利用できるよう配慮し、原則2階以上を有料とする。

4 収支計画の検討

本市の歴史的なシンボルとして、また観光施設の拠点となる施設として、質の高い活動を継続するためには、安定した財源の確保が必要不可欠となる。

そのためには、できる限り効率的な運営に努め、少なくとも施設単独で単年度ベースの収支均衡を目指す必要がある。

なお、将来的には、大規模修繕や展示物等の更新が必要になり、その費用捻出が課題である。

(1) 主な歳入(約40,000千円)

(3)で後述する集客予測(入城者数約15万人)のうち、有料入城者数を約7割、また、平均入城料を最大料金500円などとして試算すると、入城料が約36,000千円、駐車場利用料などが約4,000千円と見込まれる。

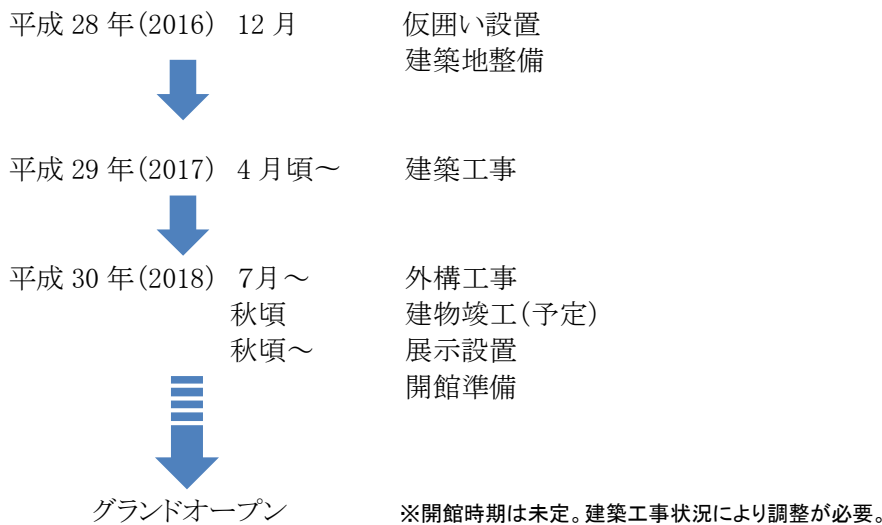
(2) 主な歳出(少なくとも40,000千円)

他都市における類似施設の管理運営費や尼崎城天守の規模などから試算すると、尼崎城天守の受付・案内係を含めた人件費として約16,000千円、光熱水費などの物件費として約24,000千円程度が見込まれる。ただし、企画展や大規模イベントの実施など、尼崎城天守の活用方法によって運営体制が大きく変わる。

(3) 集客予測

類似施設の施設規模、立地条件、入城者数などを分析し、尼崎城天守の集客予測を行った結果、入城者数は約 15 万人程度と推計される。

事業スケジュール



平成 29 年 8 月
 尼崎市 ひと咲きまち咲き担当局
 まち咲き施策推進部城内まちづくり推進課
 電話 06-6489-6147
 メール ama-shiro@city.amagasaki.hyogo.jp
 〒660-8501 尼崎市東七松町 1 丁目 23 番 1 号